

2023 年度 第 1 回 6 月九大本番レベル模試 地理 採点基準

■ 単答記述問題

誤字，脱字，漢字間違いは 0 点。

■ 論述問題

- ① 「設問別加点基準」に基づき加点する。また，その他各問題の主旨に適した解答にも適宜加点する。ただし，満点を超える得点は与えない。
- ② 以下の「共通減点基準」に基づき減点する。

■ 共通減点基準

- ① 加点要素における誤字・脱字および漢字の間違いは 1 点減点。
- ② 下線の付け忘れは 1 問につき 1 点減点。
- ③ 指定語句不使用は，指定語句 1 つにつき 1 点減点。
(解答中のどこかで使用していればよい。
加点ポイントの脱落による減点がある場合は，それ以上の減点は不要。)
- ④ 字数オーバーは 1 点減点。

*減点しなくていい要素，その他の注意

- ① 地理用語に関して，漢字の新字体／旧字体や，スロヴェニア⇄スロベニア，パキスタン⇄パーキスタンといったカタカナ表記の通念の範囲内での異体に関しては減点はしない。
- ② 加点要素以外で誤った記述があった場合，その部分は 0 点だが，減点はしない。
- ③ 加点項目は内容的に整合性が取れていればよく，字句の順序や表現は必ずしも完全に一致していなくてもよい。
- ④ 文章が未完のものも減点しない。

■ 採点記号について

1. <□□□□> 加点ポイント
2. □□□□× 事実に誤認あり
3. □□✓□□ 誤字あり／脱字あり

■ 設問別加点基準

- 1) _____ 部分は必須キーワードであり、この表現がなければ当該加点ポイントにおける加点はしない。その他は同義であれば加点する。
- 2) ○○／△△ は「○○でも△△でも可」を意味する。
- 3) 「② (①の説明として)」は、加点ポイント①を正解していなくても、加点ポイント②に該当すれば加点する。

[1]

問 2 20 点

※ [指定語句] 国境 商品作物 2020 年 紛争 緑の革命 5 つ全て使用 (※下線不要)

☆☆ 指定語句不使用は、指定語句 1 つにつき 1 点減点。
ただし、解答中のどこかで使用していれば減点しない。

2020 年の新型コロナウイルス感染症のパンデミックで生活困窮者が増え、図 1 の全地域で栄養不足蔓延率が上昇した。特に貧困層の厚いサハラ以南アフリカと南アジアは深刻である。それ以前の栄養不足蔓延率は、緑の革命と経済成長が進んだ東南・南アジアで低下傾向にあったが、サハラ以南アフリカは高い値で推移した。植民地時代から自給作物より商品作物の栽培が優先されてきた、民族分布を無視して引いた植民地の境界が国境となり民族間の紛争が多い、干ばつが多い、人口爆発が続いている等がその要因である。西アジアと北アフリカもシリア内戦で難民が周辺国へ大量に逃れるなど紛争が多く、パンデミック前から栄養不足蔓延率が上昇傾向であった。

【加点ポイント】

(※問 1 の可否は問わないが A~D を使って説明している場合は
受験者の「問 1 の解答」に当てはめて判断する)

i) 地域的差異と背景について (16 点)

①<2 点> 【サハラ以南アフリカについて】

○栄養不足蔓延率が特に高い／栄養不足蔓延率が図 1 の中で最も高い

②<6 点 (2 点×3)> 【①の背景】

- 自給作物より商品作物の栽培が優先されてきた／外貨獲得のため商品作物が栽培される
- 民族分布を無視した国境により紛争が多い／紛争により農業ができない
- 人口爆発／食料増産が人口増加に追い付かない
- 干ばつが多い／気候変動の影響／砂漠化の進行

1 つ 2 点 6 点まで

③<2 点> 【東南アジア・南アジアについて】

※「東南アジア」「南アジア」のどちらか片方について指摘していれば加点する

○栄養不足蔓延率は低下傾向であった／栄養不足蔓延率は徐々に下がっていた

④<2 点> 【③の背景】

○緑の革命が進んだ／経済成長が進んだ／工業化が進んで所得が向上した

(次ページに続く)

⑤<2 点> 【西アジアと北アフリカについて】

○栄養不足蔓延率が上昇傾向であった／栄養不足蔓延率は徐々に上がっていた

⑥<2 点> 【⑤の背景】

○紛争が多い（シリア内戦／イエメン内戦など）／過激派組織による生産施設の破壊
／政局の混乱による農業の停滞

ii) 2020 年以降について（4 点）

⑦<2 点> 【2020 年以降の特徴】

○2020 年以降は（全地域で）栄養不足蔓延率が上昇した
／2020 年以降はサハラ以南のアフリカと南アジアで栄養不足蔓延率がとくに上昇した

⑧<2 点> 【⑦の背景】

○新型コロナウイルス感染症／COVID-19／新型コロナ感染症
／コロナ感染症／コロナの感染／コロナの蔓延／コロナ禍 など
△「感染症の流行／パンデミック」のみ →1 点

問 4 14 点

南半球にあるオーストラリアは、北半球の小麦の端境期にそれを輸出し、世界の小麦供給を安定させている。ゆえに、エルニーニョ現象などで同国の小麦生産量が激減すると小麦が品薄となってその価格が高騰し、栄養不足人口が増える恐れがある。フランスとドイツは、EU の前身となる国際機関が導入した共通農業政策で農家を保護してきた。その結果、食料自給率は向上したが生産過剰に陥り、多額の補助金が財政を圧迫するようになった。

【加点ポイント】

i) E について（8 点）

★問 3 で「E:オーストラリア」の正解を加点の前提とする

①<2 点> 【2008 年の自給率低下の背景】

○小麦の生産量が激減した／小麦が不作であった

②<2 点> 【①の要因】

○エルニーニョ現象
△「干ばつ／降水量の減少」のみ →1 点

③<2 点（1 点×2）> 【E 国の小麦生産の特徴】

○南半球に位置する →1 点
○北半球（欧米／大市場）の端境期に出荷（輸出／収穫）できる →1 点
（※北半球ヌケの「端境期」のみでは加点しない）

④<2 点（1 点×2）> 【①の世界の食料問題への影響】

○小麦の価格が高騰する／小麦の流通量（供給量）が激減する →1 点
○栄養不足人口が増える／栄養不足蔓延率が上がる／貧困層に食料が届かなくなる →1 点
（次ページに続く）

ii) F と G について (6 点)

※問 3 の「F:フランス」と「G:ドイツ」の可否は問わない

⑤<2 点> 【食料自給率向上の背景】

○EU (EC) の共通農業政策

△EU (EC) の農業政策／共通農業政策 (EU・EC なし) →1 点

⑥<4 点 (2 点×2) > 【⑤の問題点】

○生産過剰となった／必要以上の農産物が大量生産された

○EU (EC) の財政圧迫を招いた／多額の補助金が必要となった
／EU 内の工業国 (農業が盛んでない国) の不満が高まった

○EU 域外との貿易摩擦が起きた

○1 つ 2 点
4 点まで

[2]

問 1 15 点

※ [指定語句] 移民 植民地 先住民 低緯度 4 つ全て使用 (※下線不要)

☆☆ 指定語句不使用は、指定語句 1 つにつき 1 点減点。

ただし、解答中のどこかで使用していれば減点しない。

ラテンアメリカの伝統的な都市分布のうち、西部山脈の高山都市が、先住民によるインカ・アステカなどの文明が、低緯度でも過ごしやすい高地に成立したことに由来する。一方、大西洋側の沿岸部は、スペイン・ポルトガルからの移民がヨーロッパとの往来に適した地域に集住し、植民地支配の拠点を建設したことに由来する。

【加点ポイント】

i) 1 つ目の伝統的な都市分布 (7 点)

①<2 点> 【都市の場所】

○西部山脈の高山／アンデス山脈やメキシコ高原

②<2 点> 【①の都市立地の理由】

○低緯度の高地で過ごしやすい気候／低緯度だが標高が高いので気温が低い

／低緯度の高地で常春気候である

△「低緯度の高地」または「年中過ごしやすい気候」のみ →1 点

③<3 点> 【都市立地の歴史的背景】

○先住民によるインカ・アステカなどの文明が成立／先住民による文明が成立

／先住民がインカ帝国やアステカ帝国を形成

△「先住民が多く住んでいた」のみ →1 点

ii) 2 つ目の伝統的な都市分布 (8 点)

④<2 点> 【都市の場所】

○大西洋側の沿岸部 (港湾／臨海部) ／大陸東岸の沿岸部

△「沿岸部」のみ →1 点

(次ページに続く)

⑤ < 6 点 (3 点 × 2) > 【④の都市立地の理由】

- 植民地 支配の拠点 / 旧宗主国が都市を建設した → 3 点
- 移民 がヨーロッパとの往来に便利 / 移民 が上陸した沿岸部に集住した
/ 入植者が本国と往来しやすい → 3 点

問 2 20 点

※ 【指定語句】 国土開発 人種のるつぼ 不法占拠 3 つ全て使用 (※下線不要)

☆☆ 指定語句不使用は、指定語句 1 つにつき 1 点減点。
ただし、解答中のどこかで使用していれば減点しない。

経済の立ち遅れた内陸高原に新都市を建設し、ポルトガルの影響下に形成された沿岸都市から遷都することで、内陸の振興により均衡ある国土開発を進め、沿岸部に集中する人口を分散させるだけでなく、人種のるつぼと呼ばれる多様なブラジル社会の新しい象徴とすることを図った。新首都には事前の予測を上回る人口集中が進み、近未来的な計画都市の周辺に形成された衛星都市が拡大し、低所得層が土地を不法占拠したスラムも広がる。

【加点ポイント】

① < 12 点 (4 点 × 3) > 【遷都の目的】

- 内陸高原の経済 (産業) 振興 / 内陸部の 国土開発 / 内陸部と沿岸部の経済格差の解消
- 沿岸部に集中する人口の分散 / 沿岸部の人口過剰の解消
- 人種のるつぼ と呼ばれる多様なブラジル社会の新しい象徴
/ 人種のるつぼ と呼ばれる多民族国家の象徴 / ブラジルのアイデンティティの構築
- ポルトガル (旧宗主国) の影響色の排除
/ 旧首都 (リオデジャネイロ) はポルトガル (ヨーロッパ) の影響が強かった

○ 1 つ 4 点 12 点まで

② < 8 点 > 【ブラジリアで生じた問題】

- 事前の予測を上回る人口集中 / 過剰人口
- 都市の膨張 / 周辺の衛星都市の拡大
- 低所得層が土地を 不法占拠 / スラムの拡大

○ 1 つ 4 点 8 点まで

問 3 15 点

メキシコシティ、ブエノスアイレスなどの首位都市は、国内外からの投資が集中して産業が発達するため、農村部などから多くの余剰労働力が流入して形成されるが、就業機会が不十分でありインフォーマルセクターの従事者やスラムも増加する。また、インフラ整備が追い付かず、交通渋滞や大気汚染などの都市問題も課題となる。

【加点ポイント】

i) ラテンアメリカの首位都市の例 (4 点)

①<4 点 (2 点×2)> 【首位都市の例】

○メキシコシティ/ブエノスアイレス/サンティアゴ/リマ/モンテビデオの中から
1つ2点 4点まで

×リオデジャネイロ/サンパウロ

ii) 首位都市 (プライメートシティ) が成立する背景 (5 点)

②<2 点> 【首位都市の特徴】

○国内外からの投資が集中/インフラ整備が最も進んだ都市に産業が集中する
/開発過程で1つの都市に優先的に資本が投下される
/資本が集中することで国内の他の都市との格差が拡大する

③<2 点> 【②の影響】

○多くの余剰労働力が流入する/就業機会を求めて多くの人が流入する

④<1 点> 【③の流入元】

○農村/農家

iii) 首位都市が抱える課題 (6 点)

⑤<6 点 (2 点×3)> 【課題】

○就業機会が不十分/失業者が多い/インフォーマルセクターの従事者が増加 →2 点
○スラムの増加/ストリートチルドレンの増加/住宅の供給不足 →2 点
○インフラ整備が追い付かない/上下水道や道路の未整備/交通渋滞/大気汚染 →2 点